令和４年度第１回　南丹市地域創生会議　議事録

■日　時：令和４年８月 25 日（木）午前９時 30 分～12 時 15 分

■場　所：南丹市役所１号庁舎３Ｆ　防災会議室

■出席者

委　員：新委員、今西委員、窪田委員、黒田委員、谷口委員、谷委員、中越委員、廣戸委員、俣野委員

（欠席：高御堂委員）

事務局：西村市長

市長公室　國府公室長

市長公室企画財政課　井尻課長、片山課長補佐、冨部企画係主任

■傍　聴：１名

1．開会（事務局）

２．委嘱状交付（西村市長）

･新委員に代表交付

３．あいさつ（西村市長）

皆様方にはそれぞれの分野で大変お世話になっており、ご活躍をいただいている。大変お世話になっていることを改めて御礼を申し上げたい。

本日、大変お忙しい中、お集まりいただいたことに感謝を申し上げたい。皆様にはこの会議の主旨をよくご存知いただいているが、日本創生会議では2010年から30年間に日本の小さな自治体、消滅していくところがどんどん出てくると言っている。20歳から39歳までの年齢がこの間、半減すると。そうなると当然、自治体の人口が半分になり、更に進むと消滅してしまう。これは大変だということで国や地方をあげてやはり人口問題そして地域が存続し得る、そういう国づくりをしなければならないということで、まち･ひと･しごとを創生していくことによって産･学･金･労など、様々な方が力を合わせて、まちづくりの方向をつくっていこう、地域を盛り上げていこう、持続可能な南丹市をつくっていこうということで、今日お寄りいただいた。

既に南丹市では地域の創生事業として積極的に事業を取り組んでいるが、必ずしも大きな成果、具体的な成果をあげているわけではない。毎年、人口が300人程度減り続け、もう間もなく3万人切る段階。その意味で様々な社会やインフラの維持についても、人口減少によって大変厳しい状況になっている。

そんな中で私、去る4月の選挙で再び担当させていただくことになった。大きな活動の柱、まちづく

りの柱として人口減少の問題を中心に据えて取り組みを進めていく必要がある。しかし、色んなところで申し上げているが、なかなか特効薬というものはない。働く場所や住む場所、あるいは特に周辺地域で活力が非常に減衰しているそういう状況の中では、やはり地域を守っていくのはそれぞれにお住まいの皆様方、市民である。そういった皆様の問題意識やあるいは、次の世代のために自分達の地域を少しでも守っていこうという、そういう気運づくりも必要。今年度は特にまちづくり協働員を中心に、今までの集落支援員、里の公共員、地域おこし協力隊、そういう皆様方と合わせて南丹市で地域を盛り上げたい。そういう人をつくっていこうということで、現在進めている。様々な事業も皆様方のお知恵などをお借りしながら進めていきたいので、本日の地域創生の取り組みにお力とアイデアをお寄せいただきますことをお願い申し上げ、私からのご挨拶にさせていただく。

◇ここで事務局より
・各委員のご紹介
・欠席委員および設置条例に基づく会議成立報告
・事務局員の紹介

４．座長指名（西村市長）

南丹市の様々な事業にも幅広く関わっていただいて、京都府下全体も俯瞰的に見ておられる方、窪田委員を迷わず指名したい。皆様からも賛同の気持ちを拍手でお願いしたい。
（市長は他の公務のため退席）

◇座長あいさつ
それではご指名をいただき、これから2年間皆様にご協力いただきながらこの会議を進めて参りたい。色々と至らない点もあろうかと思うがよろしくお願いしたい。市長からもお話があったが、地方創生について多少、区切りなので挨拶で申し上げたい。

人口の推計を今回の第2期のところで改めて見ると、2040年に2万3千人弱、2060年には1万5千人ぐらいの人口になってしまう。それでどうなるのかということ、地方が消滅するというのは実際になくなるのではなく、人口減少で公共施設の維持などが難しくなるので、例えば合併で規模を大きくしてその分、体育館とか図書館とか様々な施設が遠くなってしまうとか、小学校・中学校が歩いて通えないような場所になってしまう懸念はあるものの、何とか存続していける状態。今までもそうしてきたのだから何とかなると思う方もいるかも知れないし、私も軽々しく言えることではない。

そんな中で日本全体の大きな政策としての地方創生というのは、全国各地に魅力あるまちを作って人とか物とかお金とか様々なリソースを集めるというのが大きな戦略になっていくわけである。国からも色んな補助金・交付金で後押しを受けながら、地方の独自のアイデアでこの魅力のあるまち、単に消費者としての観光客を集めるという意味もあるだろうが、これから生まれてくる人達も含めて私達が生きてみたいと思うような人生、キャリアを歩めるような多様な選択肢がまちを作っていく。農業、京都府職員、ケーブルテレビ、金融、労働組合、大学の教員、スポーツの選手など色んなやりたいことが、その地域で実現していけるような社会をつくっていこうということだろうと。日本中全部でできなくても、そういうことを目指していくまちができれば、そこを中心に再建されていくことになると考えている。市長は謙遜されていたが、関わらせていただいてから15年経って色々変わってきたという思いは持っている。その中で更に2040年ぐらいを視野に置きながら新しい南丹をつくっていく、というのが課題

になる。

大きな戦略としての地域創生戦略があり、南丹市の様々な施策や事業、全部そこに位置づけられているといえばそうであるが、その中でも特に国の交付金をもらって取り組むものについて評価をする形になっている。委員が仰っていたように「ややこしい」という事情がそこにある。私達がやることは3つぐらいあって、1つは南丹市の地域創生戦略全体を見て「これでいいのか、次なにをするのか」各界からのご意見をいただきたいということ、2つ目は国から交付金をもらって南丹がやっている取組は、ある意味他の地域のお手本になるような事業ということでお金をもらっているのだが、狙いどおり上手くいっているのか各界の知見を活かして検証していただきたいというようなこと。最後は、この会議の枠は越えるが、皆さん南丹の各界を代表される方なので、それぞれの分野でこのまちの地域創生に役立つようなことを何かできないか考えてやっていただいて、広めていただいたら嬉しい、とそういう会議である。例えば、私は南丹市の交付金をいただいて高校生 YouTuber 養成講座というのをやってみたり、高校の地域探求のお手伝いをさせていただいて、それをまちづくりと繋げるというような取組をした。今年度は南丹広域振興局の関係で SNS の事業、前任の副局長から提案いただいた発展形に関わらせていただこうと思っている。

長くなったが皆様にも、ひとつはそれぞれの分野でこの地域が魅力的になるようにできることとかを周囲の方とお考えいただいたらありがたいし、続いて南丹市の地域創生全体が次の時代に選ばれるような魅力があるまちになっていくということを見ていただきたい。最後に、交付金事業がちゃんと必要があって上手くいってるかをそれぞれのお立場から言っていただけたらありがたいということ。そうしたことを通じて、選ばれるまちというとハードルが高いが、ご家族やお子さん、友人や親戚などが、一緒に住んでみたい、呼んでみたいと思われるようなまちになればと思う。少なくとも、自分が隙さえあれば出て行きたいとか、人には勧めない、というまちだったら、どうにもならないので。特効薬はないと西村市長も仰ったとおりだが、目指しているところはそのようなこと。皆で住みたくなるようなまちに繋がるようなことを考えていけたらと思っている。私もどれだけお役に立てるか分からないが、皆様のお力を借りてやっていきたい。

５．議事

委員：

議事に入る前にこの会議の進め方について事務局から説明をお願いする。

■今年度のスケジュールについて事務局から説明

・近年の評価対象事業数増加を踏まえ、今年度も2回完結スタイルで開催

【第1回】交付金対象事業の概要説明、次回ヒアリング対象事業選定、評価確定に向けた評価シートの作成についてのお願い

【第2回】担当部署ヒアリング、交付金対象事業評価確定

委員：

承知した。くどくなるが私の観点からの説明をしておく。こういう行政の施策や事業の評価というのは民間企業の活動のように客数や売り上げのような形では分からないこと。そこで、何らかの評価をするために、最近企業経営でも使われるようなKGIとKPIというような段階を踏んだ数値目標を掲げ、それが達成できているかどうかということで評価するというようなことを取り入れている。交付金事業が37

あるわけだが、それとは別に地域創生がどれだけ進んでいるのか測るKGIとKPIが設定されている。達成できなかったら、どうやったら達成できるのか別の手を皆で考えましょう、ということ。実際問題、KGI・KPIも測れる数字じゃないとどうしようもないので、南丹の発展をダイレクトに表す指標なっていない場合もやむを得ずある。まずは37の事業についてそのKPIやKGIの達成に役立っているかどうかという点をお考えいただいたらありがたいと思う。とは言え、必要で上手くいくと思った事業が、やってみたらそうでもない場合もあるので、そこを確認していきたいということ。普通そういうことは、科学的、学術的に委託して調査したらよいのだが、それ以外の方法としてこの地域で活躍されている各界の皆様に集まっていただいて、その知見に照らしてどうなのか。事業担当者の手応えも当然市の方でお持ちだが、それを第三者から見たらどうなるのか、という観点で評価をしたいということ。国全体でこういう枠組みになっており、各地の自治体で各界の皆様の多様な視点でチェックしてくださいということになっている。まだよく分からない点があろうかと思うが、事務局から説明いただく。

■「資料1：第2期南丹市地域創生戦略・関連事業に係るKGI・KPI」について事務局から説明

・資料の見方

・指標の訂正2箇所（製造品出荷額等・市民の市内就業率）

・各基本項目ごとの傾向

■「資料2：令和3年度地方創生交付金事業評価調書」について事務局から説明

・資料の見方

・各事業について端的に説明（各1分程度）

■質疑応答・意見交換

委員：

改めてご質問やアイデアをいただきたい。大きくやっていくこととしましては、この37の事業について評価をする。ご質問いただく時には、事業ナンバーを振られているので、それで言っていただくか、事業名で言っていただくと、皆どれを見たらいいのか分かりやすいと思う。次回の会議までの間にこの個別の事業について、それぞれが有効であるか否かのご判断・評価を皆様にやっていただきたい。

実際問題、評価するには有効性以外にも色々とあると思う。必要かどうか、費用対効果、もっと良いやり方があるんじゃないかとか、色々あるとは思うが、とりあえず有効であったか否かという点に集約させて書いている。評価シートのコメントのところでは、これは大変意義深いとか、意味が分かりにくいとか、そういうことも書いていただいて大丈夫かと思う。こういったことをやるのだったら例えば他所でこういうこともやっているけどどうかとか。民間でやっているこういう取組と関係あるのか、ないのかとかというようなことも書いていただいて。最終的にそれぞれが有効であるか否かを判断いただくために、ひとつは今日どんどん質問をしてください。事務局の方で集約される過程で中身を承知されているので、答えていただけると思う。

更に2～3部署ぐらいだと思うが、次回担当の方に出席いただいてもっと聞きたい事業を特定していけたらと思う。実際問題として、同じ担当部署であれば複数の事業について聞いても答えてくださるだろう。担当部署の違うものを挙げるのなら、あまり多くても時間の関係で聞けないということになってしまう。これは、この表を見てるだけでは本当のところの成果が判断できないから、担当者にもっと詳しく話を聞いて情報を引き出して判断したいという主旨もあるだろうし、今後注目していきたい取組として、どんなつもりでどんなことをされているのかを伺いたい、という主旨もあろうかと思う。

次で最後だが、37事業の評価が大変ということはあるが、実は自治体ごとに交付金事業数や金額は全然違う。私も府内の他自治体でいくつも評価に携わっているが、南丹市は多い。多いこと自体は大変素晴らしい。いいことだと思う。ただ、そうすると2つのことがあって、1つは元々やっていた取組を無理矢理位置付けてやっているのではないかということ。有効性の判断をする時に疑問に思うところもあるが、一方で南丹の地域創生にとって必要か、という観点でご判断いただけたら。もう1つは、委員ご自身に関係する事業もあると思う。正直いって私も自分のゼミ生が「総合振興計画進行管理事業」をやらせてもらっている。さっき言っていた高校生 YouTuber 講座というのも「市民協働推進事業」の枠組みでやらせてもらっている。まさに当事者なので、何かやっていただいてありがたいというのは勿論私も思っているが、それはそれとして当事者だからこそ分かるような運営上の改善点とか、遠慮なく出していただいたらと思う。というのは私達は一面において日本が国全体で進めている地方創生に関わっている。それぞれの地域の地方創生を前進させるような先進的取組を交付金で見つけて評価して全国に発信したいという狙いもある。そういった意味で有効かどうかというのも遠慮なく言っていただいたら。皆様どこからでも結構なので、「これはいい」とか「これは実際のところどういうことなのかもう少し聞きたい」とか「これはちょっとどうなのか」のような観点で遠慮なくご発言いただけたらと思う。

委員：

資料1のKGI・KPI、非常にうまく色んな要素組み合わせながら分けられていると改めて拝見させていただいた。非常に努力の跡が見える分と、それぞれどういう意味があるのか、折角の数字なので可能な範囲で分析してもらえたら。この場で答えられなくても結構。その後分かる範囲で教えてほしい。

2行目の「誘致企業地元雇用率」、これR2からR3に向けて非常に伸びている。誘致企業もこの間、非常に順調に増え、特に新光悦も埋まってきていると。新たな企業誘致も進めている。この辺、ご努力しているということで良かったと思うところ。

一方で2の一番下の「市民の市内就業率」は、自営業と農林業含めての数字だが、60％で大体横ばい。若干上がったが。目標値が68．9％と割と高めに設定している。なかなかこれも施策と最終的なKPIには少し距離があるが。誘致企業の方はかなりご努力して、市内就業率の向上に取り組んでいるが、地域別に状況は違うと思う。特に交通幹線から離れているエリアでは、いかに地元での就業率を高めるかというあたりも重要になると思う。もし、データ的にとれるようであれば少し地域別の状況がわかれば、あるいは業界別の状況などが見えると、よりターゲティングとか色んな取り組みとの広がりがあるのではないか。

（1）の「製造品出荷額」2019年までの数字とR2の数字が非常に落ち込みが大きいので、何か要因があるのでしたら分かる範囲で教えてほしい。

その他、転入転出が好転している。色んな施策の効果だと思っている。

（2）の一番下からの「観光マップアクセス数」が4万から1万に減っている。ライフトレイルも非常によいコンテンツだが、100件くらいしか見てもらっていない。この辺の対策を何か考えているのか。各観光協会もできていて、DMO の方も連携していただいているので、WEB マーケティングも進めてもらえたら。

出生率も非常に厳しい状況もあるが、一方で保育所の定員は頑張っていて、子育てしやすい環境もできてきていると感じている。色んなデータをうまく組み合わせ見ることによって、取り組みとの関係が見えてくると思う。市当局として、その辺を自信をもって言える部分と、「いや、これはこういうことで課題なんだ。だからこの施策を頑張るんだ」というような形の位置づけをしてもらえるとありがたい。データは後日で結構。

事務局：

把握している範囲で言うと、WEB 閲覧数の落ち込みは、南丹市のHPが途中で1回変わりまして、その関係で観光ページを組み直したため、データの取り方がそこで変わってしまった。それまでの閲覧数から落ちているというのは、観光のページを別に切り離したので、そこだけで見ると閲覧数が減っているように数字上は見える。とはいえ目標は変えずにここからどこまで伸ばせるのか見ていこうという方針で継続して数字を上げている。根拠欄のURLが今ターゲットにしているページのURLで、そこに対してのアクセス数で把握をしている。指標の作り方とで言うと、よい形では多分ない。途中で変わってしまった指標なので。ただ、目標としては4万5千という目標に向けてできるだけ閲覧数を増やしていくという方針。

委員：

農家民泊関連の数字を出していただいているが、1棟貸しの宿など、農家民泊ではないが、もう少しリッチな層が来るようなところが盛り上がっているということを聞いている。そこが反映されているのか、いないのか。そういったお客さんの方がお金も落としてくれると思うので地域にとってはよいのではないか。

「不妊治療支援件数」は単純に少ないと思った。割と同世代で治療したいと悩んでいる人の話を聞くことがあるが、補助制度を知らない人が結構いると思った。どういうところでお知らせされているか、お知らせいただきたい。市の広報とか、どこ載っているか、配りものに入るのか、その世代の人に郵送で届くのか、市内の医療機関で聞いたら分かるのか。色んな方法があると思うが、繋がるとよいと思う。

委員：

農家民宿に言及いただいたが、始めた当初は実績が上がるか懐疑的で12人ぐらいで留まっていた時期があって、これを見ると増えたなという感じはする。それ自体は喜ばしいこと。京都府の方でも取り組んでこられて、さらにそれの上位的なバージョンというのもある。

委員：

データが特化してとれているかは別にして、実際に週末はほぼ埋まっていたりとか。

委員：

全体の宿泊者数でよいのでは。普通の宿泊も入れて。

委員：

なるほど、あえて市の考えもあるかもしれないが、民間の方で頑張って入ってきてくれている分がそれはそれでよくて、市としてテコ入れして農家民宿を増やしていきたいので、その部分に特化しているということ。そもそもの目標がそれでよかったか、振り返ったら疑問はあるが、15件を目指してみようということになったのかなと思う。いずれにしても多岐に渡るご指摘をいただいた。事務局からも何か追加情報はあるか。

事務局：

今のところは持ち帰りにさせていただく。

委員：

「誘致企業就業者数」、コロナ禍において全国的には、女性の労働者、特にパートアルバイトにしわ寄せがいったと聞いている。この数字を見ると誘致企業では数字が伸びているが、正社員・パートアルバイトで一緒になっている。頑張って就業者数を守っておられる、ということについてお聞きしたい。

もう1点は新しい人の流れのところで「転入者数」と「転出者数」、これも初めて逆転でよい傾向になったとお聞きした。これも新しく南丹市に入ってこられる年代層はお若い方が多いのか、高齢の方が多いのか。それが分かれば、新しい人の流れにおいても一定議論が展開できると思った。

事務局：

年齢別・年代別データは、分かれば次回お示ししたい。

今回、転出者より転入者の方が多かったということで、ピンポイントでの分析になってしまうが、旧町ごとで言うと、園部が60人ぐらい、日吉が9人、八木が3人、美山が40人ということで112人の転入超過。その中でももう少し詳しく見ていくと、例えば園部であればやはり住宅地があるような所の転入が多くてその中でも転入が多かったのは、横田、内林、小山西など住宅地があるようなところになる。八木は残念ながら増えているところより減っているところの方が多い。南地区、特に本郷のあたりは区画整備されている関係で増えているように思う。日吉でもイングランドヒルズなど住宅地あたりがコロナ禍もあり入ってこられているようである。美山は空き家バンク、定住移住関係の支援を使って転入されてきている傾向があると分析している。

【1－1】間伐材出材奨励事業

委員：

成果アウトプットで平成30年がピーク、3万㎥切り出して、そこからR2まで下がり、R3が少し戻った。林業情勢が非常に厳しい状況にあるのも承知している。この辺の平成30年くらいからの落ち込みに対し、特に今燃料費が高い中でこの制度は非常に助かっておられるのではないかと思う。もう少し色んな構造的な問題もあろうかと思う。この辺の原因なども把握していたら教えてほしい。

最初の発言で申し上げたかったのは、色んなデータと施策との関連性。まさにそれが評価ということだと思うので、その観点で担当課にも確認していただきながら成果を。色々やりましたとアウトプットまではよく見えるが、それと色んな構造的なことを含めて教えていただきたい。

委員：

多岐に渡っているが、もし事務局の方から返せる内容があれば。全部でなくても細かな点はまた必要に応じて改めて言っていただけると思うが。

事務局：

申し訳ないが、大半のことについてそこまで分析ができていないのでお答えが難しい。事業へのご質問は、担当課に確認してお返しをしたい。

委員：

引き続き、37のそれぞれの事業がどういうものか把握していただくために質問していただきたい。繰り返しにはなるが評価なので、ともすれば人が一生懸命頑張っていることについて重箱の隅をつつくご

とき厳しい言い方になってしまう。日常はそういうことは皆さんやらないと思うが、これはそういう場であると思って、ご指摘をいただけたら嬉しい。

「間伐材出材奨励事業」は皆さん特にないか。私としてはこれは、間伐材を活用したことに繋げていくとなっているが、こういう時の評価の見方というのは、本当にそうなっているのか、具体例を追及していく。そこに至らないまでも、委員も仰ったように、間伐材をどうやってやっていくのかと。切り出すことの助けになっただけで、十分地域の助けになったということとは思うが。本当は間伐財を活用した林業振興をしたいと書いてあったら、具体的を聞きたいところ。なかなか難しいとは思う。

委員：

「京都丹波木づかい運動」で府内の間伐材を使おうという運動をしているのだが、実際に使う人達に情報が全然来ていないので、繋げられられたらという思いがある。搬出する方もそこと繋がっていないと思うので、今度八木原木市場の見学に行こうかと言っている。

委員：

私も事情をよく知らないが、間伐材事業に関連してもっと繋がりや広がりが出そうか。

委員：

そう思う。欲しいと言っている方はいるが、何かどこに聞きにいったらよいか。京都府も南丹市も頑張っているのだろうが、流れができていないように感じる。私もどこを繋げばよいか分からない。担当部署で持っている情報を話していただくとか、そういうことが必要なのかなと。

委員：

先ほどの発言とも繋げて、間伐材の活用について具体的にどういう取組をされているかは少なくとも事務局に確認していただくということにする。

【1－2】徳用林産振興事業

委員：

名前とは裏腹に山椒とかお米を栽培しているという、ぱっと見分かりにくいしつらえにはなっていると思う。この辺どうなっているか聞いてはどうか。

委員：

加工や飲食店展開と書いてもらっているので。少し具体的なことがあれば教えてほしい。

委員：

こんな感じでこの事業はどうですか、ということを聞いていただけたら。45分くらいまでは各事業の話をして、次はどの事業について担当に来ていただくかまとめて、評価シートの書き方を事務局に教えてもらって、その後の予定を決めて12時に終わっていくというイメージ。どうぞ遠慮してお聞き逃しのないようにしていただけたら。

事務局：

現状で朝倉山椒関係のことを申し上げると、3年度の実績として京都府農業会議の主催でこのプ

ロジェクトの懇談会を開催し、そこで販売先や加工について意見交換している。出荷実績がない状態なので、具体的にはまだ何も決められていない。令和6年頃から出荷が本格化するという見通しがあるようで、令和4年度にもモデル園で30kg程度は収穫が出来るであろうという予測。そのくらいの時期から少し形になってくるという見込みである。

【1－4】商工振興助成事業（創業支援）

委員：

よいことだと思うが、南丹市ならではのものになっているのか。比較的都市に近いところで創業支援というのは民間でも色々されている中で、講座定員15人が埋まっているのはよいことではあるが。南丹の地域の人向けに南丹で起業していくために有効なものになっているのか。この修了証を得た人がどのように活躍しているのか。予算規模自体は別にそんなに目くじら立てるほどではないと思うが、せっかくだから南丹に特化した創業の機会やネットワークづくりになっているのか知りたい。

【1－7】ものづくりのまち推進事業

委員：

二本松学院にも京都伝統工芸大学校というのがあり、ものづくりを学んでいる学生がいるので、協働できたらと思う。南丹市でどういう行事とかイベントをやっているか知らない学生が多いので、何かツール、ポスターやチラシのようなものを通じてもっともっと学生が参画すれば望ましい。

【2－1】空き家流動化対策事業

【2－2】定住促進サポートセンター運営事業

委員：

空き家対策事業は空き家になってから申請する流れだが、区なり自治会なりで、空き家になりそうな家は事前に把握できると思う。空き家や農地、空き地は3年も経てばボロボロになる。それを再生させるにはかなりエネルギーもコストもかかるので、自治会とか区の責任として、行政としても事前に独居老人の家は把握できることだから、それを察知して今後の3年先、5年先に空き地・空き家になる家をピックアップして、それに対して事業を打っていくみたいなことを先々していかないと、一気に地域の空き家が増えていくのではないかという危惧がある。そのあたり積極的に行政が動いていった方がよいのでは。

【2－6】商工振興助成事業

委員：

南丹市花火大会としては中止だったが、実行委員会を別に立てて縮小して今年同じことが行われていて、同じ場所で同じ日に。地元の人からは縮小したけど「こっちの方がいい」という話を非常に多く聞いている。今まではすごく沢山の人が外から来てある意味南丹市のPRにはなったが、元々は地元の人が鎮魂の為に始めた灯篭流しから始まっていると聞いている。地元の方が地元の誇りを持っているイベントではないし、親戚に「この日実家に帰ってきて」と言いにくかったのが、今年は規模を縮小したおかげで都市部から来る人は減った一方、地元の評価はとても良かったようである。今後のイベントはwithコロナでもあるし、イベントのあり方として今回の形の方が一層定住促進になっているのではないかと思う。「お盆に地元帰ってきて」という。そこで商工課と商工会の方と地元の人とが何か連携できていればよいなと思う。

委員：

亀岡と大堰川、両方行ったが対照的だった。亀岡はそこらじゅう大阪ナンバーなどが非常に多く、まちがパンクしてしまっていた。その分、沢山来てもらったが、なかなか大変だった。一方、大堰川八木の方は地元の方、子ども達の思い出づくりになってよかった。内藤ジョアンオペラに出た子ども達がステージに出たり、ひとつのレガシーとしてイベントをやって、その後子ども達に引き継がれているというのが素晴らしいなと感じた。

イベントというのは本当にまちの人の為にやるもの。発想として非常によいのだろうと思う。人を沢山呼んでもそのまま来て帰ってしまうだけなので、地元の人が嬉しいイベントというものをもっともっと意識したらよいのかな、と考えさせられた。

【2－13】山村留学事業

（一部、【1－3】サテライトオフィス誘致事業者等支援事業関連の意見あり）

委員：

これをすごく昔からやっているのが凄いと思っている。今年なくなってしまうのが残念。一周回って今全国的に注目されていることだと思っている。北海道の事例で、北海道・保育園留学とか検索すると出てくると思うが、過疎の町で1～2週間単位で親御さんも一緒に保育園に留学し、そこで収穫体験や農村体験をすることでファンになってもらう、という取組が注目されていた。

1年通して来るのは、予算もかかるし難しいかもしれないが、別に市の予算をかけなくても、都会に住んでいて田舎に興味があって、子どもに学ばせたい方は自分でお金をかけてでも来たいと思っているのでは。何かやり方があるのではないか。どこかひとつに施設を運営しなければ、とかではなく、保育園留学みたいなことだったり、1週間ぐらいだったらリモートワークできるという方も増えているので。やり方を変えるとよいのではないかと。

委員：

最後に仰ったのはワーケーションとは違うものか。

委員：

ワーケーションのこと。ワーケーションの一種で更に南丹のファンにそのうちなる子どもを育てるということ。

委員：

親の仕事の方か、子どもの保育とか教育の方に力を入れているかとか、力点の違い。

委員：

そうである。普通にワーケーション推進でもよいと思う。サテライトオフィスを誘致しているが、その企業だけでなく、在宅ワークでどこでもできるという人向けの取組があれば。

委員：

山村留学については前年度に特定の方の負担が大きく、違う手法でという話になっていた。その次に何かできないかという提案でもあるということ。ワーケーションは色んなところが取り組んでいるだけに

南丹市でも考えなければ。

委員：

山村留学は、自分達の身の回りに前例のないことだったので、大変素晴らしい事業をされていると思って今まで取材をさせていただきました。しかし、地元にしたら皆さんご高齢ということと、学校が合併してしまったために、地元の小学校の人数を増やすという元々の役目がなくなり今回終わると聞いて残念。本当に地元だけでやるというのはなかなか難しい部分があるので。何か単発で自然の中で体験して帰っていただけるような取組のような、違う事業に繋がったらよいなと思う。

【4－6】小学校跡施設利活用推進事業
【4－10】小学校跡施設管理費

委員：

小学校の跡地利活用という部分で地域それぞれ使い方が全然違うし、地元としてはそういったものが残ることで人の流れができるなどもあるとは思うが、【4－6】の今後の方向性というのは年間の維持費がかかるので今後どうするか課題になっていたり、中ではサテライトオフィスとして使われているところもあれば、何とかグラウンドとか体育館を地元の子ども達が使ったり単発で部屋をサロンに使う程度にとどまるところもあり、差が色々ある。運営側にもなかなか難しいところもあって、市として今後の方向をどう思っているのか。地域が実際どう思っているのかが今、点でしか見えないので何か一覧で、皆さんがどう思って、どういう方向に進んで行くのか分かれば嬉しい。

委員：

毎回言って恐縮だが、4年ぐらい前に今ぐらいの時期にゼミ生達と1泊2日で全部まわった。その後、どうなっていったのか。地方創生の交付金という文脈では、全国的に見ても跡地利用としてモデルになるような取組があるのか。フェードアウトしていくのか、着陸できるようなことを考えるのか、どんな状況になっているのか、一度知らせてもらえたらというのは私も思うところ。

【4－7】市民協働推進事業
【4－9】大学等連携推進事業

委員：

まちづくり活動支援交付金や大学枠について。これは結構小さい額で、今回市としては継続していたものが新たに交付金を得られるようになったという理解かなと。大学等連携推進事業は新規と書いてあったが、事業名が変わったからそうなのだろうと。

学生チャレンジ枠に実績がない。例えば、私にも「よかったら学生でどうですか？」と担当者に会ったら勧められるが、実際問題としては利用がないというよりは、やり方や制度そのもの、運営に課題があるんじゃないかと。要は「こういう学生に来てほしい」というイメージがあるんだろうが、そこに届けるアピールをしていないのでは。まちづくり活動支援交付金とか学生チャレンジ枠を大学の運営へどうアピールしているのか知りたいが、私も交付金を受けている当事者なので物足りない気持ちも相当ある。利用しにくいと思う面もあって、一度伺ってみたい。

委員：

大学等連携推進事業について。私が所属する二本松学院も園部キャンパスに 2 千人程おり、その

うちの約4割近くが下宿、その大半が園部に下宿をしている。私自身ももっともっと学生が地域の方と交流してほしいという思いがある。色んな面白そうなプロジェクトを他の学校とされているので、本校も南丹市と様々な取組をやっていけたらと思う。

委員：

高校生も参加してほしいけど、そもそもどんな取組があるか知らない、という現状があり、高校への働きかけとして色んなことをやっている。そういう若い学生層に来てほしいという発信をもう少ししても大丈夫というか、とりあえず来てもらうという働きかけがもう少しあってもよい。学生チャレンジ枠も地元に通学している大学生や高校生向けにあってもよいと思うし、なかなか京都市内の学校の人が学生だけでチームを作って補助金 10 万円で来るというのも。

さっきの発言の意図は、要するに府立大学や同志社大学に担当者が来てしっかりPRをしないと誰もやらないだろう、という。市内の学生・生徒さん達にももっと働きかけて来てもらわないと誰もやらないのではないか。枠だけ作って待っていてもやらない、という意識で発言した。何かできないかなと。

【4－8】なんたん中間支援センター運営事業

委員：

デザインセンターにこれだけ沢山の方が来館されて相談されているが、実際に相談されたことがどれくらい先に繋がっているのかという数字が分からない。相談されたらそれで終わりなのか、それが次に繋がっていけるのかというのが分かれば。

【4－13】森の京都推進事業

委員：

森の京都 DMO では南丹市だけではできない様々な調査をしていただいていると思うが、どんな調査をしていて南丹市にどう活かされているのか。次回聞いてみたい。

委員：

森の京都は今年、南丹市からも1人派遣いただいて、マーケティング担当をしている。やはりある程度ターゲットを絞って、どういうお客さんに来てほしいのかなど、その辺を具体的なテーマを絞ってやっていく。南丹市をどう活かすか、というのを意識しながら考えてもらう。
私が答えることではないかも知れないが、関係者だったので少し触れさせてもらった。

【その他のご意見】

委員：

こんな事業も地域創生として取り組んでいて、説明や皆様のご意見を伺って「ちゃんと地域創生になっているのかな」という思いはある。今回の八木花火については、毎年だったら車が一杯だったのがスムーズになったみたいで。亀岡と比べてよい感じで終われてよかった。亀岡の JR の事件は新聞で読ませてもらっていたが。今回、本当に初めてこういう取組を知って、前からも公開されていたかもしれないが、こんなに色んなことで地域創生に関わっているんだと改めて感じた。

委員：

観光関連でその評価というわけではないが。コロナ禍で観光関連、思うようにいかなかったという時

期が長引いている。その中で南丹市は美山中心にその中においてもまだ人が動いているなというのは感じているところ。その他の八木、日吉、園部といった地域の観光協会との連携についての考えなども興味がある。美山については、非常に頑張っていると感じているのでどんどん推進して欲しいと思う一方で、人が密集しすぎて、観光公害という言葉も聞く。そういう状況も地域によっては見られると聞いている。その対策をすると活性化にブレーキをかけることになるのかもしれないが。ただ全く考えなくてもよいかというとそうではない。そうした観光公害に関する南丹市の担当部署の考えを聞いてみたい。そういうことも踏まえて、今後の事業を考えてもらえたら。

【次回の担当部署ヒアリングについて】

委員：

本当に多様なご発言を活発にいただけて嬉しい。1つは今回の質疑を踏まえて事前評価をいただくのだが、個別の事業で疑問や判断に迷うことがあればとりあえず事務局にお尋ねいただく。

次回、せっかくの機会でなので、具体的に担当部署を呼んでいくつかの取組、1個の事業でもよいし、複数の関連する取組でもよいからヒアリングをしようという設えの回になっている。担当部署で考えられるのは商工課か地域振興課か観光交流室が大部分。あと社会教育課などが複数事業あるということで候補になる。既にご発言もあったが、この中からここを聞きたい、などありましたら、挙げていただきたい。観光はコロナの影響がどうであったか、これからどうなっていくのかということで戦略を立てた時と関係がだいぶ変動しているので、観光関係の事業でコロナの影響とwithコロナあるいはポストコロナということでどのようにしていくのかは1つ候補かなと。他はどうか。商工関係か地域振興関係かとは思うが。商工関係で商店街の活性化とか創業支援という問題があろうかと思う。地域振興の方では中間支援センターや大学連携、学生に関わってもらう話などもあろうかと思う。

委員：

商工関係で大規模な商談会みたいなのに参加する費用などに使いやすい形の補助金になっていると思うが、沢山集まりにくくて、WEBでの展示会や自社サイトを作るような方向も増えている。そういうのに転用できたらよいのか、何か考えているのか聞いてみたい。

委員：

確かにコロナで環境が激変したのもひとつある。当初は順調ということで言っていて、今どうなっているのかという。

委員：

それぞれ頑張っているのは感じられる。ご発言があったように実際に創業支援してその後、どうなるのかという話や、あるいは商工会や金融機関が色々と伴走支援して事業者を色々サポートされているが、スタートアップ・タッチアップ定着していくにあたっての市の施策がどのような位置付けでどういう効果を発揮しているのか。施策として複数事業に絡んでくると思う。スタートアップにプラスする話、サテライトオフィスも含めて。その辺をトータルに一度、話を聞いてみたい。金融機関も日常的にご支援されていると思う。なかなか行政だけでできるものでもないので、商工会・金融機関との連携の中で今どんなことが話題になっているのか。特に市町でも新たに仕事づくりの仕掛けもしていただいている。特に地域の事業者は創業だけでなく、事業継承のような課題もある。

委員：

　では観光交流室と商工課と地域振興課にお世話になることにして、もう少し重点を絞った方がよければ、今日の議論も踏まえて私が預かって事務局と相談して絞りたい。

　次回、各部署20分程度で皆様から自由に質問していただき、その情報も踏まえて評価を確定していく作業になる。やっぱりそれぞれ頑張っているので担当者本人に聞きにくいという気持ちもあるだろうが、批判しているわけではないので気にせずに言っていただいたら。それでは更なる個別の事業についての質問があれば事務局に気づき次第投げかけてほしい。すぐに返せるものもあれば、次回ヒアリングの時に、ということになるものもあろうかと思う。ということで投げかけてください。とにかくどんな事業かを理解してこの南丹の地域創生に役立っているかどうかという点をご判断いただく。

　せっかくなので他所の取組や民間の取組をコメント欄でご紹介いただけたら嬉しく思う。先程の3部署に来ていただいてヒアリングをするということになる。

　では事前評価シートの書き方について事務局から説明を。

◇ここで事務局より

・事業評価シートの書き方説明

委員：

　第2回では委員名を伏せてこの5段階の評価にそれぞれ何人いたか、ご意見もいただきながら一番多いところに確定する場合が多い。自分が少数派であれば問題提起しても別に構わないし、そんな形でこの会としての結論を導くいうこと。事前評価を書いていただくのも大変かとは思うが、ご協力お願い申し上げる。

　最後に次回に向けての日程調整をしたい。欠席委員の都合も確認いただき、9/30AM を第一候補として、難しければ 9/29AM を第二候補とする。

　以上、少し延長してしまったが。皆様から充実した活発なご意見をいただけて嬉しく思う。ここで事務局の方にお返しする。

６．その他（事務局）

・次回日程調整の確認（9/30AM または 9/29AM）

７．閉会（國府公室長）